



6~9月の管理ポイント

今年の気温は平年よりも高くなると予想されています。
芝生にも多くのストレスが掛かる時期となりますので、万全の夏越し対策をしていきましょう。



根の生育しやすい
土壌環境を整えましょう

レボ

近年は梅雨明け後も台風やゲリラ豪雨などの短時間での大量降雨が増えています。レボは排水性が高く表層土壌の水分値を低めに保つため、過湿状態になりがちな降雨後にも気相をしっかり保ちます。定期散布を行い根の生育しやすい土壌環境を整えましょう。

スポット処理や張芝した箇所には手播きしやすい粒剤タイプのハイドレーターGがおすすめです。
使用量：2ml/m²/月 散布水量：200ml~500ml/m² 散布回数：1ヶ月に1回~2回

高親水性土壌用界面活性剤

バイタルドロップ

高親水性のバイタルドロップは、散布時に葉の表面や表層の撥水性土壌に付着する量が少なく、深い層まで素早く届いて処理層を形成します。散布液が高濃度になる少量散布でも高い効果が得られます。真夏にも安心して使用できる安全性の高い製品です。ドライスポットの予防と治療、どちらの目的でもご使用いただけます。

ドライスポットの予防 使用量：1ml/m²/月 散布水量100ml/m²以上
ドライスポットの治療 使用量2ml/m² 散布水量100ml/m²以上

サッチの除去
土壌環境の健全化

サッチクリーナー

サッチ成分のセルロース・ヘミセルロースを分解する酵素を主成分とした、酵素タイプのサッチ分解剤です。酵素そのものを散布するため即効性に優れており、サッチ分解量をコントロールすることが可能です。液剤であるため取扱いやすく、フィルターに詰まりません。農薬との混用や近接散布も可能です。土壌の透水性を改善しましょう。

土壌微生物が活発な時期になるので、微生物タイプのサッチ分解剤「サッチ・マネージャー」もおすすめです。
使用量：グリーン0.2ml/m² ラフ・FW・Tee0.1-0.2ml/m² 散布水量0.2-0.5l/m²

強光ストレス予防

インターセプト

梅雨が明けると急激に日差しが強くなります。ベントグラスにとって強すぎる太陽光は強光ストレスを引き起こす原因となります（過剰に取り入れた光により活性酸素が発生し細胞が傷つけられる）。インターセプト処理で、強すぎる光（ベントグラスが吸収する波長の可視光、紫外線）をカットし、強光ストレスを軽減しましょう。

使用量：1000-2500倍 散布水量：100-500ml/m² 散布間隔：7-10日

高温ストレスから
ベントを守る

ヒートファイター

ヒートファイターは、夏の厳しい暑さをベントグラスが生き延びる為のお勧め資材です。有効成分「ゼルンボン」が細胞を刺激することで植物自体が持つ高温耐性が活性化、通常では弱体化・致死してしまう程の高温でも生き延びられるようになります。梅雨明け前からの予防処理で、芝生の高温耐性を引き出しましょう。

使用量：0.5ml/m² 散布水量：100-500ml/m² 散布間隔：14日

土壌中の有害物質除去

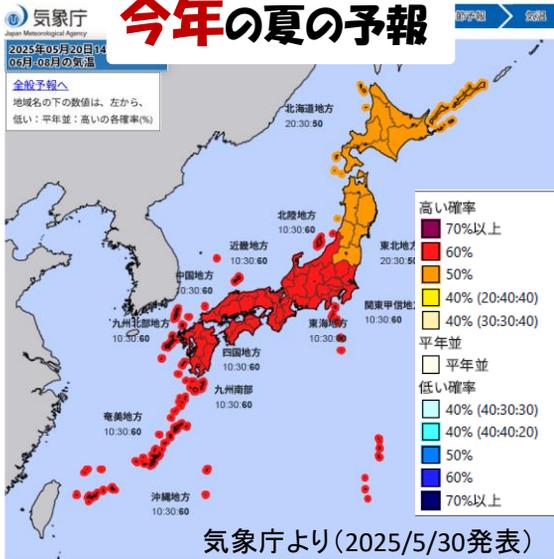
光合成細菌

過湿状態の土壌中に発生しやすい硫化水素やメルカプタンなどは、イヤな臭いがするだけでなく根を痛めます。光合成細菌を処理して有害物質を除去しましょう。光合成細菌は硫化水素などを分解するだけでなく、他の有用微生物の餌となるアミノ酸やATP、ADP（高エネルギーリン酸化化合物：補酵素）などを分泌し、有用な土壌微生物の住みやすい環境を作ります。サッチ分解剤と組み合わせると、サッチを効率よく分解できます。

使用量：1~2ml 1l/m²散布 月1~2回

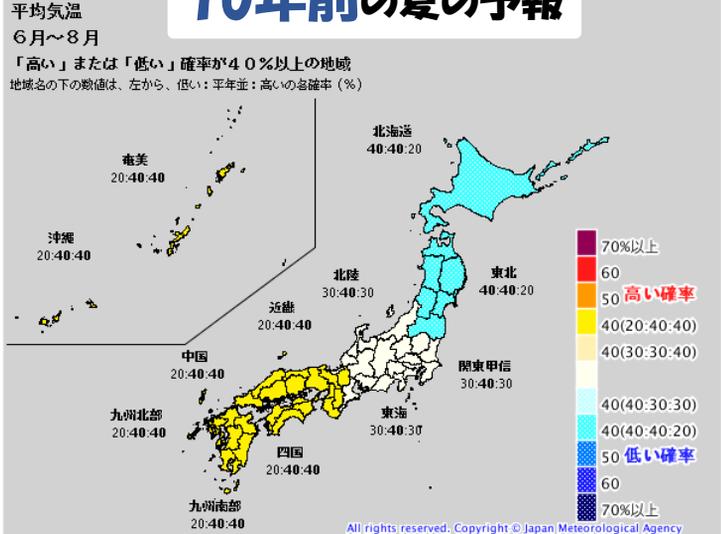
今回より本誌を、年3回発行の夏・秋+冬・春に焦点を当てた資料に変更させていただくこととなりました。皆様に価値ある情報を厳選し、より充実した内容をお届けできるよう努めてまいります。最初は、今夏に向けた三カ月予報についてご紹介します。

平均気温



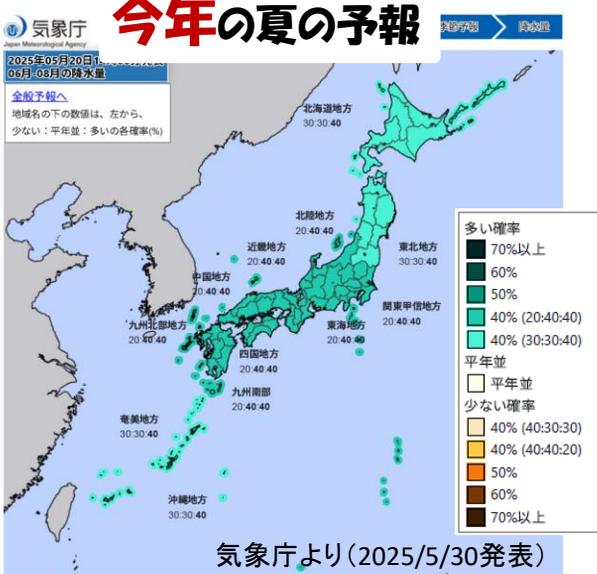
※10年前のデータは、国会国立図書館インターネット資料収集保存事業から取得
気象庁より(2014/6/1発表)

10年前の夏の予報



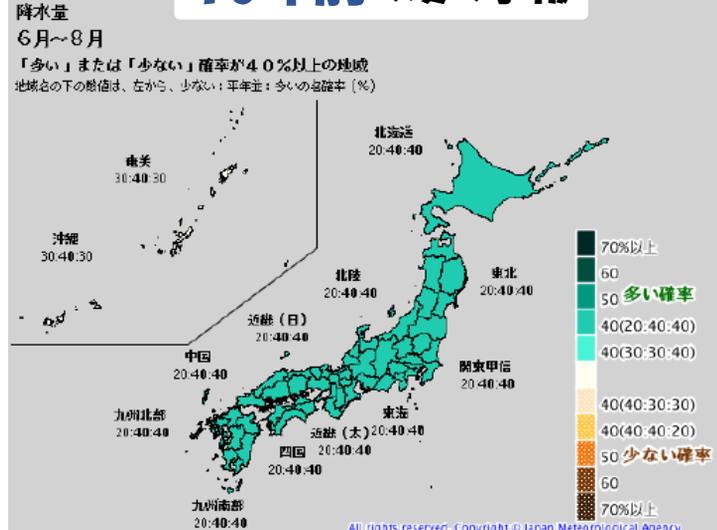
夏(6月~8月)の季節予報です。平均気温が平年(過去30年の平均値、10年ごとの更新)より高くなりそうだと赤くなり、平年より低くなりそうだと青くなります。約10年前と比べてみると一目瞭然です。あくまで予報にはなりますが、昨年、一昨年に続き**全国的に暑くなる可能性が高い**です。

降水量



※10年前のデータは、国会国立図書館インターネット資料収集保存事業から取得
気象庁より(2016/6/1発表)

10年前の夏の予報



降水量についても調べてみました。平年より多く降る可能性は40%程度で雨にも警戒が必要です。一方、約10年前と比べても降水量予報に大きな差はないように見受けられます。なお、平年値は、821.3 mm(1981-2010年)と752.0 mm(1991-2020年)とあまり差はないようです。

昨今の猛暑による被害は、今年も十分に警戒が必要です。早めの高温・多雨への対策をご検討ください。